

【樹木の部屋】

エンジュ（マメ科エンジュ属 *Styphnolobium japonicum*）

和名：エンジュ(槐) **別名**：槐樹(カイジュ)、黄藤(キフジ)、三公の木

英名：Japanese Pagoda Tree

マメ目 落葉高木

原産地：中国

花言葉：幸福、上品

花の色：白、クリーム



← 写真-1 エンジュ

撮影日：2018年04月21日

撮影場所：メテオラ(ギリシャ)にて

撮影者：M さん

↘ 写真-2 エンジュの花

撮影日：2018年04月21日

撮影場所：メテオラ(ギリシャ)にて

撮影者：M さん



↑ 写真-3 エンジュの葉

撮影日：2018年04月21日

撮影場所：メテオラ(ギリシャ)にて

撮影者：M さん

ギリシャ北部の町、カランバカにあるメテオラを訪れた際、メテオラのアギオス・ニコラオス修道院が臨める車道沿いで見かけました。

街路樹や庭木として植えられ、葉は奇数羽状複葉で互生。開花は7月で、枝先の円錐花序に白色の蝶形花を多数開き、蜂などの重要な蜜源植物となっているそうです。

エンジュはその丈夫な性質と、名前が「延寿」に通じることから、中国では「出世の木」や「長寿の木」として大切に扱われてきたそうで、中国の周の時代に、大師、太傅、太保の三公が、朝廷の庭に植えた三本のエンジュの前に座って執務にあたったという故事があり、それにならって大臣の位を「槐位」、朝廷を「槐庭」、大學の異名を「槐市」などと称したそうです。

日本でも、古事記のエピソードから宇佐美八幡宮に植えられているエンジュは「平産の幸ある木」とされ、「安産の守り神」として信仰されてきたそうです。また、北に植えると「キタエンジュ」と言われ、魔除けの効果があるとされています。家に侵入しようとする鬼を防いでくれるという伝説もあり、昔、魔よけとして一家に1本は植えていたそうです。

高級銘木として知られている槐(エンジュ)の木は昔、お面などを槐の木で彫刻し、家の鬼門に置いたことから、「木」辺に「鬼」で、槐(エンジュ)と書くそうです。飛騨地方などではこの木を家の玄関や門などに使うと、侵入しようとする鬼(災いごと)を防いだり、鬼を退治したり、封じ込めてくれるという言い伝えがあるそうです。

蕾を乾燥させたものは、槐花(かいか)という生薬で止血作用があり、エンジュに含まれるルチンはサプリメントとして利用されているそうです。抽出されたトロキセルチンは静脈瘤などの静脈疾患用医薬品として海外で利用されることがあるそうです。

<ちょっと一言>

よく似た樹木にハリエンジュがありますが、そのエンジュとの違いは・・・。

エンジュ：マメ科エンジュ属。

葉は奇数羽状複葉で互生。

開花は7月～8月で円錐花序・白～淡黄色。上向きに咲く。

ハリエンジュ：マメ科ハリエンジュ属。

葉は奇数羽状複葉で互生。葉柄の付け根に一对のトゲがある。

開花は5月～6月。円錐花序・白。芳香があり垂れ下がる。